

使徒言行録19章には【パウロの第3回伝道旅行におけるエフェソでの伝道】について記されています。前回は、主の言葉の力がエフェソの地でどのように勢いよく広く増していったかが記されていました。今朝の箇所は、このような伝道が大成功した後のこと、すなわち、御言葉が語られ著しく広がっている時に必ずといって良いほどに起こってくる典型的な反応——**反対者たちによって起こされる騒動**の様子が記されています。ここエフェソでも「神に聞き従い生きようとする人」への迫害や騒動が起きました。

デメトリオという銀細工職人が起こした騒動(23~27)、それとキリスト者・ユダヤ人との関わり(28~34)、そしてエフェソの町の書記官が介入することで騒動が解決した(35~40)話が記されています。主の言葉が宣べ伝えられていく所では、人々の欲望、悪意による曲解、扇動、付和雷同、集団暴行といった人間の罪が浮き彫りとされ、それでも“神の必然は成っていく”これがエフェソにおいて「**この道**のことで」(23節)起きた、ただならぬ騒動のあらましです。

「**この道**」と言う言葉、元々のギリシャ語を見ても『*ὁ δὸς*』という言葉で、「道路」を意味すると共に「生き方」を表す言葉でもあります。今朝の聖書箇所での文脈では「キリスト教」のことを指しているわけですが、とても含蓄ある言葉です。エフェソでのパウロの伝道によって銀細工職人たちが騒動を起こすほど、キリストの福音はこの町で影響力を持ったのでした。「**何のために集まったのかさえ分からなかった**」(32)生き方を一変させてしまうほど、その人の生き方を具体的に換えさせてしまうほどだったのです。

私たちも「**この道**」を伝えようとする時、パウロと同じように、様々な衝突や軋轢に遭遇することになるのでしょうか。しかし、神の必然だけが成る、ただそのことを信じて、主が「**私は道である**」(ヨハネ14:6)と言われた、その道を歩んでまいりたいと願います。